

発情発見の重要性の再確認

釧路中部事業センター 虹別家畜診療所 獣医師 石川 行一

組合員の皆様、釧路家畜人工授精師協会技術部会というのをご存知ですか？ 釧路管内の共済組合改良課、J Aの授精師が所属する会で、技術向上や情報交換など、日々切磋琢磨しています。2月に行われた家畜人工授精優良技術発表全国大会で、この部会の研究発表が、最優秀賞である西川賞を獲得しました。代表して発表したのはJ A釧路丹頂 井上望さん、また研究の発案者は共済組合改良課の森本将平さんです。発表の内容は、「発情発見の重要性の再確認」と題して、再授精を依頼された牛が実際はどのくらい受胎しているのか？という疑問に対して調査したものです。

図1は、再授精依頼牛における授精実施牛と授精を中止した牛の割合です。再授精依頼のあった

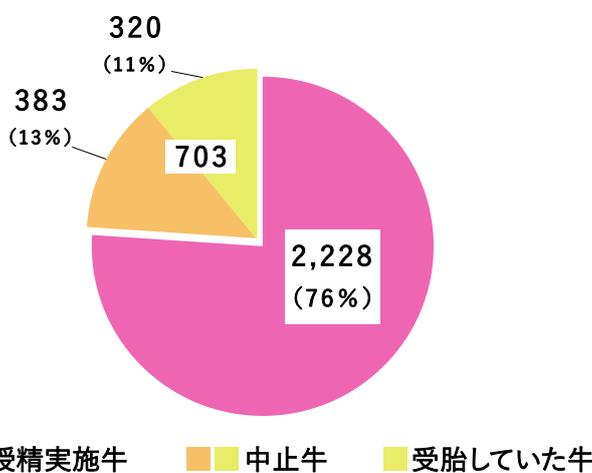


図1 再授精依頼牛における授精実施牛と中止牛の割合

2,931頭のうち、授精実施牛が2,228頭(76%)、中止牛が703頭(24%)でした。中止した牛のうち、受胎していた牛は320頭で、その割合は再授精

依頼牛の11%でした。図2には、授精依頼時に確認された受胎牛の発情徴候とその割合です。スタンディング行動が50頭

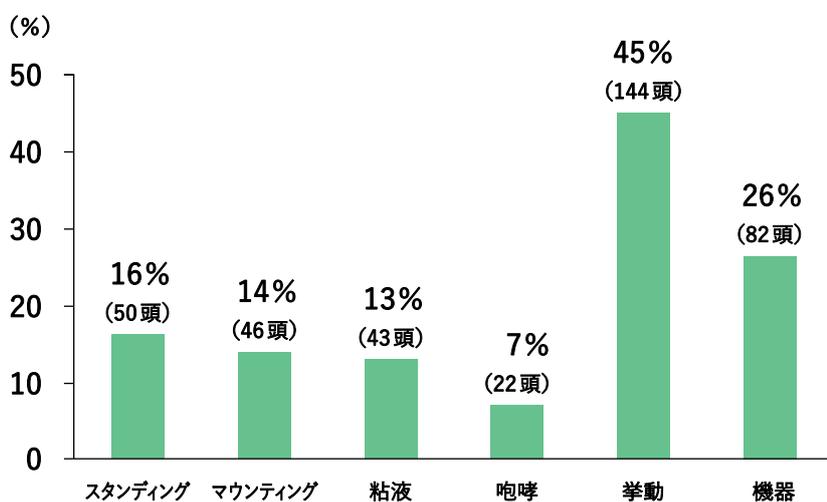


図2 再授精依頼時の受胎牛の発情徴候別の割合

(16%)、マウンティング行動が46頭(14%)、粘液の漏出が43頭(13%)、咆哮が22頭(7%)、挙動不審が144頭(45%)、歩数計などの機器による発情徴候の確認が82頭(26%)でした。挙動不審および機器による発情徴候の確認の割合が他の発情徴候と比べて高い割合でした。図3には、再授精依

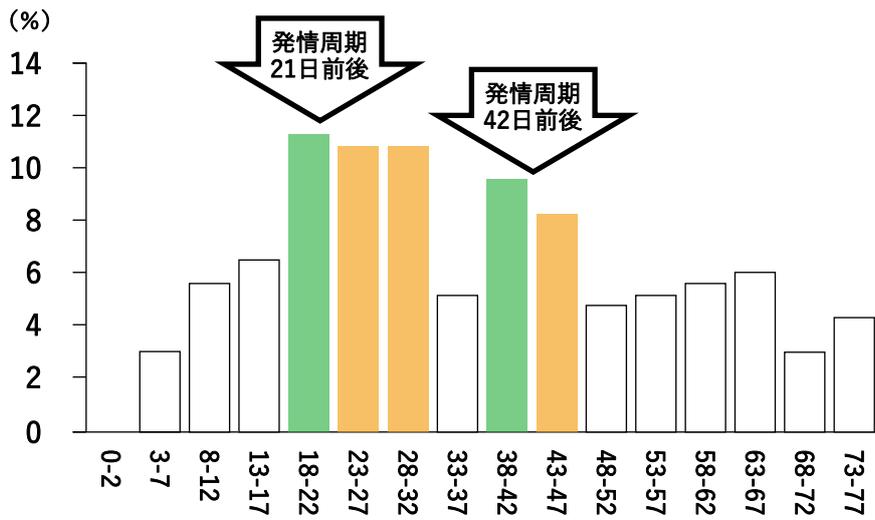


図3 再授精依頼時の受胎牛の前回授精時から再授精依頼時までの日数別の割合

頼時の受胎牛の前回授精日から再授精の依頼があった日までの日数別の割合を示しました。前回授精後18〜32日、38〜47日での再授精依頼の割合が高く、特に牛の正常な発情周期と言われる21日前後および2周期目にあたる42日前後の

授精依頼の割合が高かったです。その他、再授精依頼牛の卵巣や子宮の状態も細かく調査しました。発表のまとめとして、再授精依頼牛の10頭に1頭は妊娠している可能性があることがわかり、人工授精師は常に妊娠の可能性を考え、慎重に直腸検査を行う必要があるとしていました。また、正確な判断をするためには、組合員の皆様の発情時の行動を細かく聞かなければならないともしています。再授精依頼時には、皆様が発情発見時の行動の詳細を伝えていただくことが、受胎牛への授精を避ける重要な助けになることと思います。

釧路家畜人工授精師協会技術部会はもう既に、次の課題に向かって頑張っています。今後の活躍に期待します。